

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人浜松国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

浜松市在住の外国人の日本語教育支援の拡充と、外国人市民の自立及びコミュニティの確立を目指す。日本語能力を有する外国人（ブラジル、フィリピン、ペルー、ベトナム、中国）を対象に、彼らの同郷人に対してバイリンガルでの日本語指導と日本社会の習慣やマナーなどを教授できる人材に養成する。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月23日	フォルテ8F 会議室	清、石井、嘉数、水口、野々山、大杉、竹村、近田、川合	事業実施内容について	・今年度の講座は 10 月 5 日より公募 ・国籍を増やし、初回アンケートにて受講者の背景を把握→講座内容に検討材料に ・日本語能力検定試験2級以上
11月20日	浜 松 市 多文化共生センター	清、石井、イシカワ、水口、野々山、大杉、竹村、近田、櫻井、川合	講座の進捗状況報告、課題と方向性について	・この講座を受講している人は社会的な認知や評価を得たいと思っている ・修了生には何かしらの認定証（身分証）のようなものが必要 ・本事業を広く周知させすすめていく為にも得られた効果などをまとめ、行政の取り組みとしていけるよう、提言書を提出

				する
1月21日	第1伊藤ビル会議室	清、石井、イシカワ、水口、野々山、大杉、竹村、近田、櫻井、川合	事業成果と課題	・この活動をどのようにつなげていくのか。 ・教室を増やして活躍の場を広げる ・提言書の内容を各機関に向けたものにする

【写真】



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名

バイリンガル教師養成講座

日本語ボランティアセミナー2008

※バイリンガル教師養成講座のスキルアップ講座として

(2) 研修の目標

バイリンガル教師の養成と育成により、多文化共生社会に資する地域の日本語教育事業の充実を図り、外国人コミュニティの自立を促す。さらに、昨年度の講座修了者の活躍から受講者が外国人支援リーダーになるべく、バイリンガル教師としての在り方について内省し、意識と技術の向上を図る。

(3) 受講者の総数 13 人

(4) 開催時間数(回数) 24 時間 (12 回)

(5) 参加対象者の要件

日本語能力試験 2 級以上を取得或いは同等レベルの在住外国人

(6) 受講者の募集方法

HICE NEWS7月号、HICE ホームページ、募集チラシの配布

(7) 研修会場

浜松市多文化共生センター、アクティシティ浜松コンgresセンター

(8) 使用した教材・リソース

講師作成プリント、ビデオ、日本語教材、

(9) 講座内容

● バイリンガル教師養成講座

回	月日	内容	講師
1	10月5日 AM	パネルディスカッション バイリンガル教師の活動を通じて感じたこと、気づいたこと	清ルミ(常葉学園大学外国語学部教授) ゲスト(金城アイコ、中村グレース)
2	10月5日 PM	いま、なぜバイリンガル教師が求められているのか ニーズ分析	清ルミ(常葉学園大学外国語学部教授)
3	10月12日	日本語のしくみ	生田守(国際交流基金)
4	10月19日	日本語の教え方～入門編～	坂本勝信(常葉学園大学外国語学部講師)
5	10月26日	日本語の教え方(対象者別;コミュニティの人たちへ)	石井恵理子(東京女子大学教授)
6	11月2日	日本語の教え方～教室活動～	坂本勝信(常葉学園大学外国語学部講師)
7	11月9日	外国人の自立を目指して	イシカワエウニセ(静岡文化芸術大学准教授)
8	11月23日 AM	日本語の教え方(授業の組み立て方)	石井恵理子(東京女子大学教授)
9	11月23日 PM	日本語の教え方(教案の書き方、教案作成指導)	石井恵理子(東京女子大学教授)
10	12月7日	日本語の教材紹介と教材の活用法	築島史恵(国際交流基金)
11	12月14日 AM	実習1	清ルミ(常葉学園大学教授)
12	12月14日 PM	実習2	清ルミ(常葉学園大学外国語学部教授)

- 日本語ボランティアセミナー2008 パネルディスカッション

「これからの日本語教育～バイリンガル教師による新たな取り組みと可能性」

コーディネーター; 西原鈴子(東京女子大学現代文化学部教授)

パネリスト; 金城アイコ(ブラジル人講師)、水口パズ(フィリピン人講師)、清ルミ(常葉学園大学外国語学部教授)、金田智子(国立国語研究所日本語教育情報基盤センター)

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

② 実施主体からの研修内容結果評価

バイリンガル教師養成講座を2年継続して実施することができたことにより、バイリンガル指導者の後輩が生まれ、次世代の育成ができた。

また、ブラジル人とフィリピン人のみならずペルー人、中国人、ベトナム人と幅広い国籍の出身者が集まったことで、外国人が浜松で定住していくために必要なことや、外国人が日本人や日本社会に対して感じることが一致していたり、していなかったりしていることが共通認識として見出せたり、仲間意識が生まれ友達になれ、指導者の「卵」としての不安の共有や外国人同士としてのほう助関係ができた。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- バイリンガル日本語指導者が、外国人コミュニティのなかで日本語を教えることは、自らの日本語能力を高めることにもつながる。そのため、彼らがより高いレベルの日本語を学べるよう、国際交流協会をはじめ NPO や日本語教育支援団体等とも連携をしながら人材育成をすすめる。
- バイリンガル日本語指導者が子どもから成人までの幅広い年齢層に対応する教室ができるよう、外国人コミュニティとの連携を強めて教室を設置する。

(11) 事業の成果

(ア) 他事業との連携

「日系人等を活用した日本語教室の設置運営事業」との連携により、講師の育成と外国人コミュニティの自立のための課題について取り組んだ。平成19年度の講座修了者が日本語指導者として活躍。

- ブラジル人のための日本語教室

講師4人のうち3人が平成19年度の修了者。ともに学んできたことによる信頼関係や相互協力の体制が作られており、教室運営における連携が十分に取れていた。

- フィリピン人のための日本語教室

学習者の年齢層が10代の青少年と主婦層の2極化。第1期では合同クラスで開催していたが、内容によっては青少年の学習興味が薄れるなど、教室活動の見直しが

求められた。その結果、次世代のバイリンガル指導者をアシスタントとして動員し、学習支援の強化を図った。

(イ) 研修後の人材活用

平成20年末からの世界規模での景気後退の影響で、派遣・請負の雇用形態にあった外国人労働者が一斉に失職したことにより、浜松市が緊急雇用対策として「外国人の求職者のための日本語教室」の開講を打ち出した。そこで、先輩外国人として日本での生活を営んできたバイリンガル教師が活躍。バイリンガル教師は自らの経験を生かし、同郷の外国人学習者に対して「なぜ、日本語能力が不十分のままだったのか」「日本での労働観や習慣を理解しておく必要性」など、外国人自身の課題についても見つめ直し、定住のために必要な日本語力の習得について理解を促す機会を提供している。

(12) 今後の課題

バイリンガル教師は外国人への日本語指導者のみならず、日本人参加者に対して母国の生活習慣や外国人の考え方などの文化を伝える指導者にもなり得る。従来の日本語教室における指導者の多くは日本人であり、外国人学習者に対して一方向に向いた日本語指導がなされていた。しかしながら、バイリンガル教師が活躍する教室では、外国人学習者と地域の日本人住民との懸け橋として存在していることから、日本人と外国人の双方向で教室に参加することで、双方が互いの存在価値を認め、相互理解を深めることができる。こうしたことから、バイリンガル教師に対する社会的地位の認知と彼らの活躍の場の保障が重要である。さらに、彼らのような高い日本語能力と日本社会への理解を持つ定住外国人の高度人材の掘り起こしと、その人材の育成と活用について、静岡県や浜松市の自治体(教育委員会を含む)に対して提言する。